

市政懇談会「留萌百年物語」開催報告書

目的

明治43年、留萌の港づくりが始まり、留萌駅ができて、留萌のまちづくりが大きく動き始めてから今年で100年の節目を迎え、もう一度、先人たちの足跡に想いを馳せ、これからの50年後、100年後を考え、市民の皆さんと一緒に未来を担う子どもたちに引き継ぐまちづくりを進めていかなければなりません。

今回は「協働によるまちづくり」を進めていく中において、各種委員会などでご活躍をされている皆さん方に参加いただき、それぞれの委員会における課題や問題点、5月に実施した市民アンケートで寄せられた意見をテーマに、グループに分かれて活発な意見交換をし、一層の情報共有を図るため開催しました。

開催状況

開催日 : 平成22年11月6日(土)
開催時間 : 午後1時から3時30分
開催場所 : 留萌産業会館 2階ホール
参加状況

委員会名	参加人数	備考
防災連絡員	26名	
民生児童委員協議会	21名	
健康いきいきサポーター	14名	
環境美化推進員	28名	
合計	89名	

市政懇談会「留萌百年物語」開催結果報告

【市長あいさつ（要旨）】

- ・ 留萌も厳しい状況の中で、市民と共に新たな協働を持って、一步一步進めなければならぬ重要な時期にある。
- ・ 国の政権も変わり、色々な予算措置も変わってきている。
- ・ 地方自治体としては、自主自立に向けた地方分権という中において、それぞれがしっかり責任を持って自治を運営していかなければならない。
- ・ そのためにも、それぞれの町内会活動の中においても、それぞれ皆さん方がより助け合いながら、より思いやりに努めていかなければならないと思っている。
- ・ 私も、子どもたちの笑顔、そしてお年寄りが安心して安全な暮らしの中での笑顔ということを求めて、今日まで努めてきた。
- ・ 大きな柱は、やはり財政の再建である。
- ・ しかしながら、経済もしっかり回して行かなければならないということで、経済活性化懇談会を毎月1回開催し、その中で経済界の皆さん方と農業、漁業、商業、しっかりと連携をして、留萌のまちの将来のビジョンについてもしっかり話し合いを続けてきている。
- ・ 留萌の将来の経済状況の同じビジョンを共有しながら、経済の活性化に努めていく。
- ・ もう1点は、医療、介護、福祉です。
- ・ これは、何よりも私どもの生活の中で重要な部分であるので、やはり健康、市民の健康を旗印にしながら、そして、元々留萌は水産加工業、食品加工業が盛んですから、その食品加工業の中から、なんとか健康産業という新たな取り組みに努めて行きたいということが大きなビジョンである。
- ・ そのビジョンを一つ一つ進めて行くためには、多くの市民の皆さん方に、私どもが健康産業に向けてどういう取り組みをしていくのか、その内容についてもしっかり、市民の皆さん方にどういう形で参加していただくかについても十分ご理解をしていただいた中で、ご協力を賜っていきたいと思っている。
- ・ 子どもたちの育つ環境についても、私どもはしっかり責任を持たなければならない。しかし、スキー場の廃止やプールの休止ということで、子どもたちにも大きな悲しみを与えてしまった。
- ・ 私自身も、子どもたちから批判をいただいている。
- ・ 私は、今だからこそ批判をしっかり受け止めて、批判という風をしっかり行政の中に入れて、その中から次の計画というものをしっかり見つめ直して行かなければならないと思っている。
- ・ 多くの市民の皆さん方から色々なご意見をいただいています。そのご意見を、市

民の皆さんから行政がどのようなご意見をいただいているかということ、皆さん方にも知っていただいて、さらには、皆さん方から改めて色々なご意見を賜りながら、次の時代へとしっかり繋いでいきたいと思っている。

【平成 21 年度決算状況について】

- ・ 別添資料「平成 21 年度決算状況について」により、留萌市と留萌市立病院の財政状況について説明。

【留萌市立病院の診療体制について】

留萌市立病院 副院長 上野 芳経（よしのり）

- ・ 診療体制の現状と診療体制のこれからの予定という 2 点について、時間の都合で医師の部分に限ってのお話しをしたい。
- ・ 現在は 18 の診療科があり、数年前にかなりの医師の引き上げがあったが、その時期に比べると大きく回復傾向にある。
- ・ 病院の収支黒字化には、医師の回復という面が大きいのではないかと思う。
- ・ 実際に回復した科では、脳外科が 2 人体制、循環器科が 3 人体制になったので、今までできなかった精密検査や治療も可能になり、この 2 科の体制が整ったため、ようやく救急医療が正常化した。
- ・ 総合内科医が 4 月に 2 人着任し、11 月からは 1 人増え、3 名体制になった。
- ・ 腎臓内科は、ご存知のとおり泌尿器科が抜けた後、腎臓内科の先生が中心になって人工透析をやっていただいている。
- ・ 眼科は 1 人固定になったので、手術対応ができるようになった。
- ・ 外科も従来の 3 人から 5 人に増えている。
- ・ 手術するときには絶対に欠かせない麻酔科は、一時期全員引き上げる話になったが、今いる 2 人の先生が「絶対留萌を離れない」「留萌のために残る」と言っていたので、非常に危機的な状況にあったのを救ってくれた。
- ・ この他、研修医が 2 人いて、研修医は通常も 2 人ほどで推移している。
- ・ 残念ながら固定医が回復していないのが、呼吸器科、耳鼻科、泌尿器科。しかし、外来には来ていただいているので、これからは入院も対応できるように固定医の確保について努力を継続していきたい。
- ・ これからの診療体制で、市立病院の一番の問題点は職員の確保。とりわけその中でも医師の確保が難しく、これに最大の力を注がなければならない。
- ・ 数年前の医師の引き上げで危機的な状況にあったが、これを大きな教訓にし、また医師不足が起きた時にも打たれ強い体制を作っていかなければいけないと思う。
- ・ 医師確保の方法は、これからは多様化させて、強化させていくことが必要。
- ・ しかしながら、医師の安定供給ということを考えると、未だに大学の医局に頼らざるを得ないという状況がある。

- ・ ただ、大学の医局に頼りきってしまうと、また医師不足が起きた時に同じことを繰り返してしまうので、大学の医局には頼るが、今までのような一極依存から何とか脱却したいと考えている。
- ・ 具体的には一般募集というのもあるが、必ずしも良質な医者が来るとは限らず、また急に辞めてしまうこともあるので、理想的な方法とはいえない。
- ・ 最近の医師確保、特にこのように地域医療を担っている病院では総合医の確保というやり方がある。
- ・ 総合医とは、基本的には内科の医者だが、内科でも細分化された専門科ではなく広く内科の部分を網羅でき、それだけではなく小児科や整形外科も診ることができるという医者のことである。
- ・ 地方の病院では全て専門医で揃えることは難しく、専門医が欠けてしまい、穴が開くこともあり、そうなった場合でも患者はいるので困った状況になってしまう。そういう時でも総合医の先生がある程度の穴埋めをしてくれるので、地方にとっては一つの理想的な形である。
- ・ そのような背景で、最近では総合医の獲得競争が激しく、総合医の数も多くはないので、獲得するのは難しい状況にある。
- ・ 院長は、総合医の獲得が難しいのであれば市立病院で育成し、できれば育てた総合医が市立病院に残ってくれるのが一番確実ではないかと考えている。
- ・ 市立病院に4月から総合医が2人来てくれているが、これをずっと維持していけるかが不透明な状況にある。
- ・ 育てることも簡単ではなく、人材や設備の面など色々と難しい面もあるが、数年前の医師の引き上げを考えるとやらないといけないということで、それに向けてこれから準備を進めていき、将来的には市立病院が留萌管内の総合医育成の拠点としていきたい。
- ・ 総合医を通じて地域連携を深めて、例えば管内に医師を派遣して、専門的な検査や治療が必要な場合には市立病院に紹介をしてもらうなど、医者と患者の良い流れを作って、地域の中でみんなが幸せになれるようなものを構築していきたい。
- ・ 何をやるにしても市民の方のご理解とご協力が絶対に必要だと考えているので、これからも病院に対するご理解とご協力をお願いしたい。

【パイロットスタディ参加者募集について】

NPO法人るもいコホートピア 理事長（札幌医科大学教授）小海 康夫 氏

- ・ 健康の駅を拠点に、皆さんの健康づくりのお手伝いをさせていただいている。
- ・ 健康が何より大事だが、昨年、お手伝いもさせていただいた55歳から64歳の方の健康に関するアンケート調査では、留萌の現在の健康の状況には厳しいものがある。
- ・ 例えば、男性では肥満傾向を示すBMI数値が25を超えている方が30%以上いて、その内の半分近くの方が空腹時血糖が110を肥えて、糖尿病が怪しいとい

う結果が出た。

- ・ 病院のきちんとした診療体制の中で健康を保っていくということは大事だが、その前にできることもたくさんあり、そのためには、自身の健康を深く、そして真摯に捉えることが大切である。病気になって時間を使ってお金を払うよりも、病気にならないで楽しく暮らすことのほうが、私は幸せだと思う。
- ・ 病気について深く、健康について自身を知るきっかけとして、私どもは色々な研究を昨年まで続けている。そして、さらに健康に役立つ研究をこれからも続けて行きたいと思う。
- ・ その体制をより高度に構築するために、今回は皆さんの遺伝子を調べる「パイロットスタディ」を行う。
- ・ 今回の調べるものとしては基礎代謝、別な言い方をすると、燃えやすい体質か燃えにくい体質かが遺伝子を調べると判る。
- ・ これが、燃えにくい体質だという結果が出てしまうと、それは治すことはできない。けれども、同時に食事の詳細な調査と生活の調査を行い、それによって変えることのできる生活習慣を適切に改善する指導も行わせていただく。
- ・ このパイロットスタディは、これから行う広い研究の準備であるので、予算の関係上、先着50名となっているので、研究に参加して自分の健康づくりに取り組んでみようと思われる方の参加をお待ちしています。

【グループ討議】

参加いただいた各委員を均等に10班に分け、各班においてテーマに沿ってグループ討議を実施した。

詳細については別紙のとおり。

【終わりに（あいさつ要旨）】

高橋市長

- ・ 今年は「留萌百年物語」ということで、明治43年には50年、100年後の留萌を夢見て、私どもの先人は留萌の港を築き、そして留萌駅を開駅したのがちょうど100年前でした。
- ・ 今、私どもはこのまちに大きな責任を持って、これからの50年、100年の留萌の姿を描きながら、皆さん方とまちづくりのビジョンを共有しながら、50年、100年後の留萌のために、今、何をしなければならないのか、その進め方に、その誘導をしていくためにも、私どもはしっかりと市民に皆さん方の意見を聞きながら、そして一つ一つ説得するところは説得して、共に価値観を一緒にしてまちづくりを進めて行かなければならないと思っています。
- ・ 私の責任は、市民の幸せの実現であります。このまちの経済、雇用を守る、そして社会保障をしっかりと組み立てていくのは私の責任と考えておりますので、こ

れからも貴重なるご意見をいただき、そして、それをしっかりと行政に反映していきたいと思っています。

中西副市長

- ・ 今回の市政懇談会は、正直言って市としてのチャレンジであった。
- ・ 今回、このような多くのご意見をいただいたということは本当にありがたく思っている。
- ・ 私どもは、このいただいたご意見をどう進めて行くかということ、今後考えていかなければならないと思っている。
- ・ 毎週、月曜日の朝に部長会議を開催しているが、今回いただいたご意見をその部長会議で議論させていただいて、市政に反映できるもの、また、皆さんにもっと説明できるものを分けていきたいと考えている。
- ・ いただいたご意見は、何らかの形で皆さんにお配りしていきたいと考えている。
- ・ 町内会への参加、一番の市民と接することのできるコミュニケーションは町内会活動に参加することだと、職員にも話させていただいている。
- ・ 多くの皆さんのご意見を、今後も市の運営に反映させていきたいと思う。

工藤教育長

- ・ 行政に求められている課題、あるいは教育の求められている課題を、同じ情報の中で共有して、本当に行政に求められているものを見極めながら仕事に取り組んでいきたいと思っている。
- ・ 財政再建の中でぶるもの問題、スキーの問題もありました。いろんな形で子どもたちなり保護者の皆さん、学校の方からもお話をいただいている。
- ・ いろんな機会を通じて、そのような声をいただきながら、できるだけ子どもたちの環境づくりも含めて、留萌の元気なまちづくりをみんなが進めていきたいと思っている。